

ある むぜお

府中市郷土の森博物館だより

al museo

2025 年 3 月 20 日

No.151



「天然記念物 馬場大門榎並木」の標柱

もくじ

- 1-2 国天然記念物指定 100 年 馬場大門のケヤキ並木
その④…100 年前に建てられた標柱
- 3 展示会案内
企画展 野鳥の選択
- 4-5 NOTE
広がる府中の「富士見」
- 6 series 祈願と御利益
④「子孫繁栄」に求めるもの
- 7 最近の発掘調査
室町～戦国時代の黒い塚
- 8 近代プラネタリウム誕生 100 周年！
プラネタリウムについて知ろう！
⑧思い出のプラネタリウム

国天然記念物指定 100 年

馬場大門のケヤキ並木

おおくにたまじんじゃ
大國魂神社の参道であるケヤキ並木は、1924 年（大正 13）に国の天然記念物に指定されました。2024 年、100 周年を迎え、博物館では 12 月から 1 月にかけて展示会を実施しました。本誌でもケヤキ並木にまつわる話題を 4 回シリーズでお届けしています。

その④…100 年前に建てられた標柱

上の写真は、ケヤキ並木にある標柱です。京王線の高架から 60m ほど南方に立つこの標柱は、天然記念物指定の翌年、1925 年に建立されています。もはや、100 年前の遺産といってよいでしょう。



国天然記念物指定 100 年

馬場大門のケヤキ並木

その④…100 年前に 建てられた標柱

4 回シリーズの最終回です。いまさらですが、天然記念物^{てんねん きねんぶつ}は、動物、植物、地質・鉱物などの自然物に関する記念物のことです。現在、国では、1950 年（昭和 25）に制定された〈文化財保護法〉によって、重要なものが指定されます。そして、天然記念物や史跡は、〈史跡名勝天然記念物標識等設置基準規則〉^{のつと かくちゆう}に則^{したが}って、角柱形の《標識》^{こんりゆう}を建てることになっています。この標識の建立については、文化財保護法に先立つ〈史蹟名勝天然記念物保存法〉^{きねんぶつ}下でも〈史蹟名勝天然記念物保存施設規則〉^{しせき}に記されていて、我が国の文化財保護の最初期からの施策でした。

ケヤキ並木にある《標識》を改めてみてみましょう（表紙写真）。頂部を角錐形にした花崗岩製で、高さは約 2.9m、正面に「天然記念物 馬場大門^{ばだいもんけやき}櫓並木」、向かって左側面に「史蹟名勝天然記念物保存法二依り大正十三年十二月内務大臣指定」、右側面には「大正十四年十二月建設」と刻まれています。天然記念物指定のちょうど 1 年後の建立で、「内務大臣指定」とあるのは、当時、内務省の所管であったからです。

指定に伴^{ともな}って設置されたのは、《標識》だけではありません。かつては、《標識》の東側に《保存注意事項・指定区域図揭示板》がありました。この揭示板がいつ失われたのかははっきりしませんが、幸いに大國魂神社にある写真によって当時の様子を知ることができます。写真を見ると設置は「大正十四年三月」。標識に先行するのは、石造の標識よりも設置が安易^{あんい}だったからでしょう。

もう一つ、《境界標》の設置義務もありました。文字通り、天然記念物の範囲を示す境界標識です。現在は、北端に一つだけ残されていますが、ケヤキ並木は全長約 600 mもあるので、少



上：設置間もない保存注意事項・指定区域図揭示板（大國魂神社提供）
下：ケヤキ並木北端に残る境界標



なくとも南端にも設置されていたはず。北端に現存する《境界標》は石造の角柱で、一辺 17cm、高さ 33cm です。小さいので、目立たず、おそらく南端に設置されていたものは失われてしまったのでしょうか。現存《境界標》の 3 面には、それぞれ「境界標」「指定天然記念物区域」「内務省」と刻まれています。《標識》とともに、指定当時の遺品といってよいでしょう。

ところで、標識は旧甲州街道から 200 m のところにあり、東面して建てられています。いささか不思議な位置と向きといえますが、かつては京王線府中駅の南口から南西方向へ向かう道があり、この道がケヤキ並木に達した地点にあたります。駅からケヤキ並木へ向かうと、その正面に《標柱》があったこととなります。それなりに、目に付く場所に設置されていたことがわかります。

（深澤靖幸）

企画展

野鳥の選択

～どうしてヤツらは都市を選んだのだろうか？～

展示会案内



4/26 (土) ～ 7/6 (日)

会場：本館 2 階 企画展示室

さわやかな鳥のさえずりとともに目覚める朝…庭の植木に止まって鳴くのはシジュウカラでした。

いつものゴミ出しの朝…置き場に積まれたゴミ袋を破って中身を散らかすカラスに啞然となりました。

こんな日常の風景、ふと気が付けば、当たり前のように目に映る野鳥たちですが、どれも都市の住宅地や商店街などで暮らす者たちです。中でも、大方の人が知る代表種は以下の面々でしょう。



ハシブトガラス



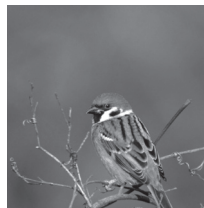
キジバト



ムクドリ



シジュウカラ



スズメ

彼らは、都市部で見られる基本の野鳥であることから、ものさし鳥とも呼ばれ、他の野鳥を観察する際の指標にもなります。各々大きさや色、模様が異なるため、これらの特徴を把握することで、さまざまな鳥の同定に役立つのです。カラスより大きい小さい、ムクドリより色が濃い薄い、スズメくらいのサイズだが模様が異なる等々…。

そもそも彼らは、元から都市を住处にしていたのでしょうか。たとえば府中やその周辺は、今で

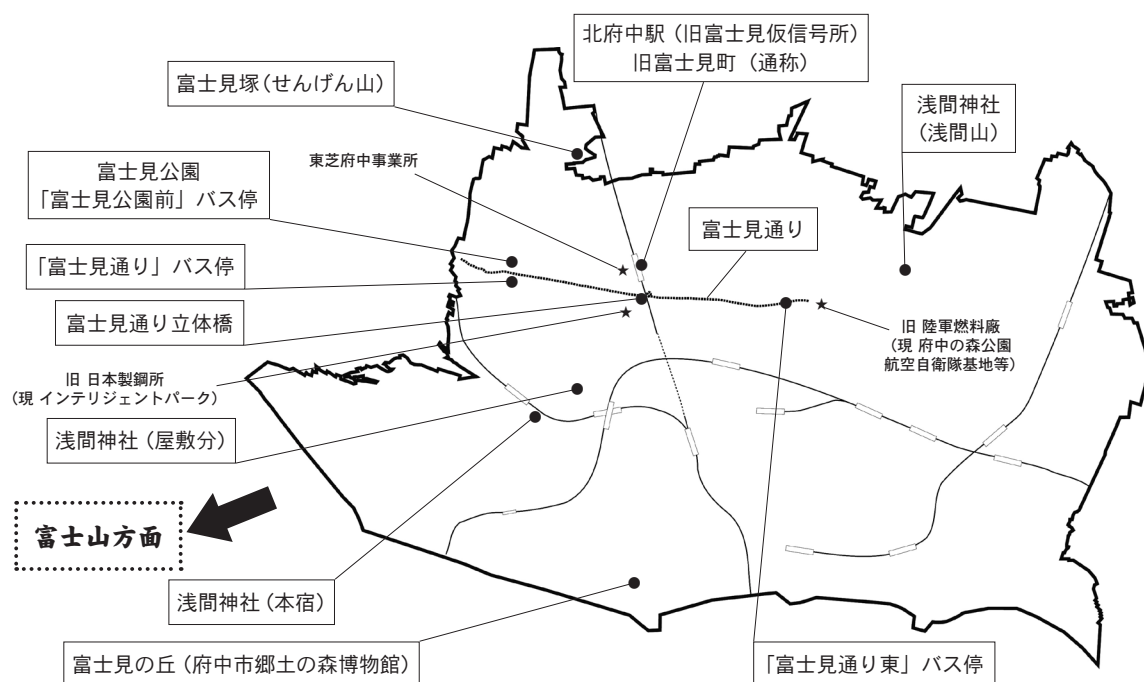
こそビルや住宅だらけですが、100年近く遡れば、豊かな自然に囲まれ、日本最大のキジ生息地であったり、トキ・コウノトリ・ツルの仲間まで暮らしていたといえます。都市部周辺がまだ武蔵野の林野や農耕地であった頃には、もちろんカラスやスズメは普通に存在しました。しかし、戦中戦後の食糧難で人が大量に鳥を捕獲、高度経済成長期の開発で周囲の林や畑が消失する、などの原因で、彼らは都市部から離れていったのです。

時を経て、人工化の進んだ都市に、鳥たちがリターンを始めました。開発の波が都市エリアを拡大させ、里山や山地の一部を浸食し始めたからです。せっきくの避難地が居辛くなってきたことで、ふたたび転居を強いられた野鳥が選んだのは意外にも都市でした。

何が呼び水になったのでしょうか。それは、都市に街路樹や公園が整えられていたことで、エサとなる草木や昆虫に事欠かなかったこと、さらに人が捨てる残飯を漁ることが出来たからです。ビルや住宅の隙間には隠れ場所なども確保出来、さらには天敵が少なく、社会も野鳥愛護の意識に変わっていました。見た目は違っても、本来の住处に匹敵する条件が揃っていたというわけです。

近年、これに追従して新たな野鳥が続々と都市を新天地に選択しています。キツツキの仲間や海岸の岩礁地帯に住む者までと、カオスな状況です。そしてついにワシ・タカの仲間までが…。

そんな都市の足元で活動する野鳥を再認識してみましよう。剥製標本や写真パネルを眺めながら、時代とともに人の行動が都市の野鳥を変動させてきたことを考える機会になればと思っています。
(中村武史)



府中市内富士山関係スポット地図

▼ 富士山・浅間・富士見塚

日本最高峰の富士山にちなむ神社の多くは、浅間神社と呼ばれます。江戸時代には富士信仰が流行しました。富士山頂や山麓はもちろん、各地に浅間神社がつくられたほか、地元の山を富士山に見たてたり、土盛りした疑似的な富士山（富士塚）をつくったりして信仰しました。府中市内でも若松町（旧人見）にある浅間山の山頂には浅間神社が祀られ、晴れていればそこから富士山を見ることが可能です。

そのほかにも、市内には浅間神社が2社あります。いずれも美好町内ですが、旧地名では、本宿と屋敷分にあたります。

このうち、屋敷分の浅間神社は、明治後期に現武蔵台付近から現在地に移されたと伝えられています。1952年（昭和27）に発行された2万5千分の1地形図「立川」で移転前の旧地を見ると、現在は存在しない神社の地図記号が確認できます。その周辺は、屋敷分が所属していた旧府中町の飛び地でした。詳細は不明ですが、神社移転後も祠や鳥居等、何らかの信仰施設が残っていた時期があったと思われます。

神社の旧地は、かつて「富士見塚」「せんげん山」と呼ばれ、武蔵国分寺観光の際に立ち寄る場所でした。江戸時代につくられた『江戸名所図会』にも富士見塚として紹介されています。国分寺崖線沿いにあり、かつてはそこから富士山を見ることができたようです。江戸時代には富士見スポットかつ富士信仰の場だったのでしょう。

江戸～明治時代頃には、この富士見塚周辺の現市域に集落はなく、その大半が雑木林や畑でした。現在富士見塚は病院の敷地内に位置し、祠等はなく、頂上からも樹木等が邪魔をして富士山を見ることができません。

▼ 北府中の「富士見」

新たな「富士見」の名が市域に登場するのは、昭和になってからです。1934年、多摩川の砂利を運ぶ鉄道として、国分寺～下河原（現南町）間を結んでいた下河原線に「富士見仮信号所」（以下「信号所」）がつけられました。沿線では、前年に東京競馬場ができたことにより、レース開催時は新たに設置された東京競馬場前駅まで旅客運輸が行われるようになりました。さらに1940

年には、信号所付近に鉄道車両工場（現 東芝府中事業所）、日本製鋼所（現在移転）、約2 km東に陸軍燃料廠（現 府中の森公園、航空自衛隊基地等）が開設されました。製品輸送や人員通勤の需要も生まれ、これら施設に向かう引込線が複数分岐する場所にもなりました。そんな場所に旧来の地名ではない「富士見」の名がつけられていたのです。

この場所は先に紹介した富士見塚から下河原線や府中街道に沿って2 km弱南方向に移動した辺りです。ほとんど建物がなかった昭和初期、付近から富士山が見えたことから名付けられたのかもしれませんが、明確な由来は不明です。

信号所は1949年に「富士見仮乗降所」となり、1952年には「北府中信号所」と改称されました。正式に「北府中駅」になったのは1956年のことです。この頃、北府中駅から東側は宅地開発され、正式な町名ではありませんが、1935年に移転してきた府中刑務所敷地を含む、通称「富士見町」が形成されていました。現在ほぼその名を聞くことはありませんが、1960年にこのエリアの町名が晴見町と決定するまで、富士見町も新町名候補の一つでした。もっとも、宅地開発がなされた後は、道路沿いから富士山を見ることは全域でできなくなっています。

▼「富士見通り」の誕生

府中市内には「富士見通り」が東西に通っています。しかし、通り沿いは住宅やビルが立ち並び、おそらく限られた建物の2階以上からでなければ、富士山を見ることはできません。では、どうしてこの名がつけられているのでしょうか？

陸軍燃料廠に至る下河原線の引込線は、終戦後に燃料廠が米軍基地となっただけから使用され、1964年頃には朝一往復だけ輸送が行われていたといいます。しかし1967年頃には、ほぼ使用されなくなっていました。そして1968～69年の間に線路は撤去され、北府中駅付近から基地までをつなぐ市道に生まれ変わりました（基地は1975年返還）。その道は発着点付近の旧称から「富士見通り」と名付けられました。下河原線の旅客輸送が廃止となり、北府中駅が武蔵野線の駅に改編された1973年には、線路を東西に跨ぐ「富士見通り立体橋」が完成しました。その結果、富士見通りは北府中駅から西方向にもつながり、現

在は西原町の市境付近まで通じています。

▼「富士見」と富士山を見る場所

現在、富士見通りの東端付近の天神町と府中町に「富士見通り東」、西端近くの西府中に「富士見通り」というバス停があります。西原町には富士見通り近くに「富士見公園」という名の公園が、さらにその目の前には「富士見公園前」バス停もあります。「富士見」は、現北府中駅付近の一時的な地域通称となり、そこからのびる道路名となり、さらにそれをもとに、バス停や公園の名称になりました。このように、市内には、誕生時点で富士山が見えなくても「富士見」の名を持つ場所が増えていったのです。

「富士見」とつく地名は、府中市内に限らず各地にあります。自治体名としては埼玉県富士見市、長野県富士見町、群馬県富士見村等があります。近隣では調布市富士見町、立川市富士見町ほか、自治体内の町名等にも多くあります。ちなみに府中市西原町の西隣は、国立市富士見台です。国立市内にも富士見通りはありますが、富士見台は通りません。JR国立駅から南西方向、府中市内の富士見通りとは別方向にのびる道で、沿路からは現在も富士山が見えます。

なお、障害物がなければ、現在でも府中市域の大半が富士見スポットになると思われます。そして多摩川沿いや府中本町駅構内等、現役の富士見スポットがいくつもあります。最近、府中市郷土の森博物館の園内にも「富士見の丘」が誕生しました。探せば富士見通り沿いにも、現役富士見スポットがある可能性もあります。かつてはどこが富士見スポットだったか、想像しながら市内を巡ってみるのも面白いのではないのでしょうか。



府中市郷土の森博物館「富士見の丘」から見える富士山



④「子孫繁栄」に求めるもの

家族の健康や幸福を望むのは、いつの時代でも自然なことです。今回取り上げる「子孫繁栄」はその延長線上にあり、人類にとって普遍的な願いと言えるかもしれません。しかし、社会通念は時とともに推移し、求める御利益の内容も変化していきます。本シリーズの締め括りは、子孫繁栄をテーマに、そんなことを考えてみたいと思います。

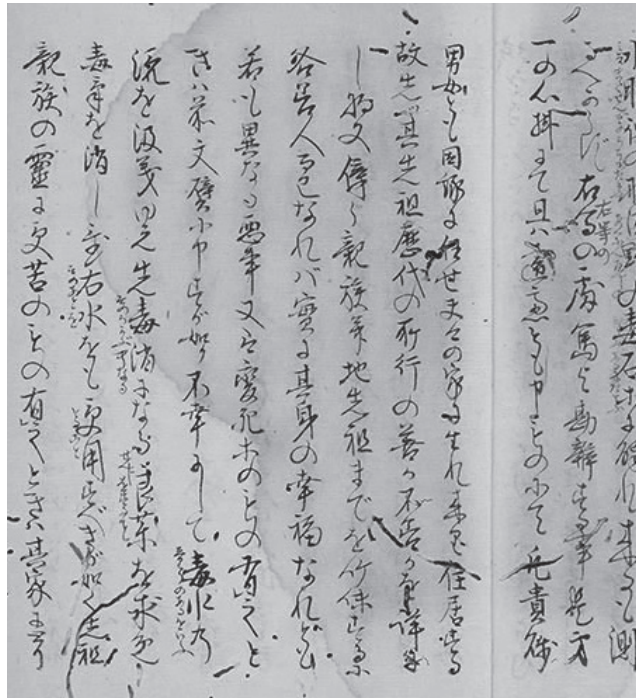
まずは、嘉永3年（1850）に作成された子孫繁栄の手引書から、江戸時代の人々の意識を覗いてみましょう。住吉町の旧家・内藤治右衛門家の5代当主・重英は「子孫繁昌心得草」と題した著書に、次のように記しています。

「先祖や親族に悪事を行ったり変死したりした受苦の者がいると、その家に障りがあり、災禍や家内不和、子孫の早世が続く。子孫が追福供養によってその者を離苦得楽（苦しみから離れて安楽を得る）に導けば、自然と子孫繁栄に至る」と。

つまり、先祖は生者である子孫から供養されること（祈願）で死後の苦しみから脱し、子孫は繁栄という恵（御利益）を得るという構図です。子孫繁栄は家の存続と一体で、先祖・子孫とは同一の家を構成する者のみを指しています（この家という軸がなければ、供養すべき先祖は膨大な数となり、対応不能です）。

ところで、ここで言う悪事には慈悲や陰徳を施す気持ちがないことや、金銭に対する執着も含まれます。また、追福供養は法要だけでなく困窮者への施行等の善行の積み重ねが必要だとされています。ここには、江戸時代中期以降盛んになった儒教的徳観の影響を見ることができますが、世に聖人君子はめったにいないので、ほとんどの人が生前に多少の悪事を働くことになるでしょう。

その悪事による死後の苦しみから脱するためには必須なのが、供養者の子孫です。自身が先祖を供養することで、供養してくれる子孫を得る…そして死後の安楽を確保するのが、子孫繁栄を求める理由のひとつです。ゆえに、子孫を持たずに死亡した者は、その恩恵が受けられない無縁仏とし



「子孫繁昌心得草（部分）」本宿小野宮 内藤治右衛門家文書

て区別されることになりました。

それでは、供養された先祖はどうなるのか、これも重英がきちんと（？）書き残してくれていました。「没後一身の心がけ、石塔二魂魄止り、永ク子孫榮永を守る事のミ余念なく候」と、子孫を守護することを約束しています。墓石に魂が止まるというあの世観は、仏教本来の教えとは異なりますが、安楽を得た先祖は子孫に御利益を与える存在となると考えられていたわけです。

重英が「子孫繁昌心得草」を著してから175年が過ぎ、近年の家族形態は著しく変化し、家意識も希薄になりました。また、死生観の多様化により墓石の建立や供養を不要とする人も増え、子孫繁栄に求める幸福も多面化しています。しかし時代に関係なく、その根底には家族が平和な世の中で安寧に暮らすことを願う気持ちがあるはずで、社会が変容しようとも、人間の根幹を成す愛情や欲望は、大きく変わらないのかもしれませんが。それゆえに、人間のいるところには必ず祈願と御利益があるのです。（花木知子）

室町・戦国時代の黒い塚

武蔵台一丁目 府中市ふるさと文化財課

湯瀬禎彦



塚の断面

武蔵台1丁目内を横断する東八道路の南側に塚があります。従来この塚は、いつ何のために築かれたのかが分からない無名の塚でした。しかし、2007年（平成19）に発掘調査を行った結果、出土遺物により15世紀から16世紀（室町・戦国時代）頃の中世後期に築かれた塚と判明し、付近の旧小字名である横海道北に因み「横海道北1号塚」と新たに名づけられました。

この塚の平面形は方形で、大きさは一辺約20m、高さ約3mです。構造をみると、黒色土を小高く盛り、その上面に多数の小石を敷き詰めています。こうした敷石面を伴う黒色の盛土が4段積み重なり、塚を形成しています。また、黒色土には焼土の集中箇所がありました。

上記の黒色土、敷石、焼土は、この塚の大きな特徴です。一般的に塚の構築土には黒色や褐色、黄褐色など様々な色の土が混在しますが、この塚には黒色土だけが使われていました。また、敷石を詳しくみると、扁平な小石のみが使われ、これが整然と敷き詰められています。さらに、焼土については、ここで火が使われたことを示すものです。

このような特徴と中世後期の構築時期をあわせると、この塚は修験道との関連性が浮かんできます。修験道とは山岳信仰に密教、道教、神道などを融合させた信仰で、中世後期には修験道の行者が各地の村で盛んに活動したことが知られます。そして、修験道に内在する密教では様々な目的の達成を念じる際に火を焚きます。つまり、この塚は、修験道の行者が、戦乱、疫病、旱魃など人びとを苦しめる災いを祓うため、火を焚き、祈りをささげることを繰り返し行った土壇と考えられるのです。

横海道北1号塚は、中世後期における信仰活動の場が良好に残された貴重な遺跡です。現在この塚は、昨年竣工した物流施設の敷地内にあり、事業者の協力により保存されています。東八道路側の案内路から入ると見学できますので、どうぞご覧ください。



小石が敷き詰められた面

近代フラネタリウム誕生 100 周年！

フラネタリウムについて知ろう！



⑧思い出のプラネタリウム

この連載の中で、プラネタリウムの意義や役割、技術的な進歩の歴史などを、様々な角度からご紹介してきました。

一口にプラネタリウムと言っても、その特徴は様々ですが、今回は筆者が実際に観てきたプラネタリウムの中で、その時代の雰囲気や変化をお伝えできるものを、時系列順にいくつかご紹介したいと思います。

○はじめて出会ったプラネタリウム

1980年代、長野県にある私の出身小学校には、プラネタリウム室がありました。1クラスが入るかどうかのドーム径で、惑星と、300個程度の恒星が出せるくらいの小型の投映機でしたが、今思えば、学校が理科教育に力を入れていたのかもしれませんが。問い合わせたところ、現在もその部屋は残っていますが、残念ながら使われてはいないそうです。

○^{しょうげき}衝撃を受けた一^{いっきゅうしき}球式プラネタリウム

プラネタリウム本体の形状は、かつてはダンベルのような、あるいは串団子くしだんこのような、二つの球が付いたものが主流でしたが、前号のような経緯じょういから、徐々に一球式のプラネタリウムの時代が訪れます。一球式は、つくばで科学万博ばんぱくが開催された 1985 年頃から現れはじめた形状ですが、私は 1997 年に長野市立博物館で初めて見ました。真っ黒で、歯車のぞも覗いていた二球式の投映機から、シンプルで未来的なデザインの一球式に変わった時の衝撃は忘れられません。

○アメリカの先進的プラネタリウム

ニューヨークのアメリカ自然史博物館に
併設されているヘイデンプラネタリウムは、
2000年にリニューアルされ、私は2003年に
観覧しました。球体のドームが入った四面ガラ
ス張りの建物に驚き、全天周の映像の迫力に
驚き、映像に連動して振動する座席に驚きま
した。投映番組は娯楽色が強く、21世紀のプ

ラネタリウムの方向性を予見させるものでした。
ガラス張り+球体というデザインは、国内では
現在、^{こおりやま}郡山市ふれあい科学館や千葉市科学館な
どもにも採用されています。

○自然の星に近づいたプラネタリウム

最後は2018年にリニューアルした当館。その性能は前号や145号などに詳しく綴られていますが、星の見え方や色味、それぞれの明るさの違いなどがグッと現実のものに近づきました。

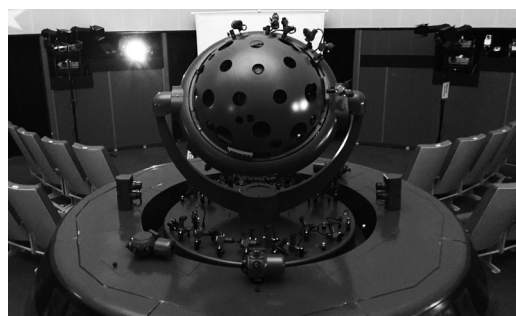
どれだけ映像番組の解像度や演出の自由度が増していったとしても、プラネタリウムは本質的に「星空のシミュレーター」であり、自然の星空を再現することが大切な使命です。手前味噌ですが、リニューアル後の当館の星空は、それまで私が見てきたプラネタリウムの中でも、最も自然の星の見え方に近いと感じられました。

○最後に

プラネタリウム施設は、時代と共に様々に移り変わってきましたが、そのなかには一つとして同じものはありません。

誕生から 100 年を超えたプラネタリウムですが、これからも進歩は続いていくことでしょう。その世界にささやかながら関わった者として、これからも皆さんが天文、宇宙への興味を持ち続けてくださり、皆さんのプラネタリウムの思い出が増えていくことを願っております。

(小林善紹)



GSS-URANUS 光学投映機（長野市立博物館蔵）。
機器の変更により、もう投映する姿は見られない。